

**令和元年度千葉県水産振興審議会 栽培漁業・資源管理部会  
議事概要**

- 1 日 時 令和2年1月21日（火）午後2時00分から3時30分まで
- 2 場 所 千葉県教育会館6階608会議室
- 3 出席委員 委員10名中10名出席  
柴田委員、山崎委員、渡邊委員、坂本委員、滝口（洋）委員、  
佐藤委員、滝口（宜）委員、高梨委員、石井委員、岡村委員
- 4 概 要

**（1）部会長及び部会長代理の選出について**

部会長について、委員から山崎委員が推薦され、異議なく選出された。  
部会長代理は、部会長から滝口（洋）委員が指名された。

**（2）「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和元年度実績について**

資料 P4-19 について、漁業資源課からの説明の後、話題提供として、資料 P21, 22 について水産総合研究センター（以下「水総研」という。）から、資料 P23 について館山水産事務所から報告があった。

**【質疑応答等】**

① 資料 P21 について

委 員：三河系群と千葉の漁獲量の推移に関連はあるのか。また、東京湾において神奈川県でのトラフグ放流による効果はあるのか。

水 総 研：三河系群や神奈川県での放流との因果関係は判明していないが、影響はあると考えている。今後検討していきたい。

② 資料 P22 について

委 員：国と千葉県との共同研究の中でマコガレイは緑色 LED に対する感受性が高い事が判明した。今後も有効活用に向けて研究を推進してほしい。

水 総 研：引き続き、指導願いたい。

**（3）「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における令和2年度実施計画について**

資料 P23-27 について、漁業資源課からの説明の後、原案どおり承認された。

**（4）本県主要魚種の資源管理について**

資料 P28、32-47 について漁業資源課から、資料 P29-31 について水総研から説明が行われた。

【質疑応答等】

① 資料 P29-31 について

委員：ホンビノスガイは、現在その半分以上が小型底びき網で漁獲されていることから、小型底びき網での漁獲に関する調査を行ってほしい。

水総研：小型底びき網での漁獲物についても、併せて検討を進めていきたいので、協力をお願いします。

(5) 藻場の回復に向けた取組について

資料 P48-51 について、漁業資源課から説明が行われた。

【質疑応答等】

委員：地先の藻場面積は広大なため、組合が状態を全て把握することが難しい。結果を提供していただき、今後活用したい。

委員：アワビで生計をたてる漁業者が少なく、藻場の状態を知る機会がない。藻場の情報を漁業者に情報提供する必要がある。

漁業資源課：今後、指針としてとりまとめる過程で、関係漁業者に情報提供していく。

委員：対象とする海域は水深 10m 以浅に限るのか。10m 以深が主漁場の地域もある。

漁業資源課：今回の調査は広範囲のため、航空機を利用した。航空写真による解析では水深 10m が限界であることから、それ以深の調査は今後の課題となっている。

(6) 栽培漁業再編計画の策定について

資料 P52 について、漁業資源課から説明が行われた。

【質疑応答等】

委員：資源が安定しているマダイも継続するのか。今後は、キンメダイなどもうかる魚種の研究や放流にも取り組んでほしい。

漁業資源課：種苗生産技術の確立は国と連携する必要がある。また、マダイは遊漁の利用もあることから、第 8 次栽培漁業基本計画に向けて関係者とともに検討していきたい。

委員：現在、漁場環境の変化が早いので、その変化に対応できるように取り組んでほしい。